

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
http://www.saitama-kendo.or.jp
(編集責任者 浅見真一)

第19号 令和4(2022)年12月1日発行

(題字 元会長 野澤 治雄)



鉄の芸術と武のこころ

埼玉県刀剣保存協議会 刀長 志塚 徳行

剣道を愛する皆様に、武士の魂とまでいわれた日本刀のお話をさせていただく機会を与えてくださり、先ずもって御礼申し上げます。

研ぎ澄まされ、見る者をして思わずたずまいを改めさせる日本刀の美しさは「秋水」とも表現されます。凜然として、静寂の中にも迫力があります。

日本刀はもちろん武器の一種です。しかし我国には刀剣を武器としてだけではなく、精神が宿るものとする信仰があったようです。ご存知のように天皇家に伝わる三種の神器は八咫鏡と八尺瓊勾玉、そして天叢雲剣ですし、大坂の四天王寺には聖徳太子の佩刀と伝えられる七星剣があります。もちろん天叢雲剣や七星剣は上古刀と呼ばれ、いわゆる日本刀ではありません。日本刀というのはあの反りのある、優美な姿をした湾刀を指します。

日本刀は鉄を熱しては折り返し、延ばしてはまた折り返す鍛錬を繰り返して作ります。そして最後には土置きをして焼きを入れ、刃文を入れます。この一連の作業を刀匠たちは自らの経験だけを頼りにして、鉄に命を吹き込むのです。刀匠が精魂傾けて鍛えあげた刀剣は、その姿や地鉄、さらに刃文で人々を魅了します。また信仰する龍神や梵字などを刀身に彫り込み心の支えとしたのです。

埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵の「謙信景光」と号された国宝の短刀には「秩父大菩薩」の文字が彫ってあります。これは埼玉県出身の武将が備前国の名工景光に作らせたもので、尊敬する故郷の神様の名前を彫らせたのです。戦国時代になって上杉謙信の愛刀になったので「謙信景光」と呼ばれています。

武士が政権を確立した鎌倉時代に刀剣は絶頂期をむかえますが、その初期のころ活躍した、備中(岡山県)青江派の刀工である為次の作に「狐ヶ崎為次」という国宝の太刀があります。この太刀は正治2年(1200)1月20日に駿河国(静岡県)狐ヶ崎で、吉香小次郎友兼が梶原景時を切った太刀で、800年後の今でも子孫である岩国の吉川家に伝来しています。

刀剣はまた権力の象徴でもありました。室町幕府の足利將軍家に伝来した「天下五剣」は織田信長・豊臣秀吉、そして徳川家康と伝わりました。

愛刀にこだわったのは鎌倉や戦国の武将たちだけではなく、幕末の武士たちも名刀を求めました。近藤勇の虎徹や土方歳三の和泉守兼定はあまりにも有名ですが、西郷隆盛は来国光や志津兼氏、そして城山で戦死した時には兼定の脇差を指していました。神道無念流の達人だった桂小五郎の佩刀は備州長船の清光だったといいますが、兜割りの榊原健吉は同田貫でした。また金象嵌の裁断銘を施して、その切れ味を誇った銘刀もあります。

古来より現代まで、多くの人々が魅了された日本刀の美しさは、まず第一に刀身の曲線でしょう。ある人は風になびく薄のようだといいますが、別の人は緊張感があるとも表現します。

次の魅力は刃文です。ご覧になったことがあるかと思いますが、ひたすら静寂な直刃もあれば大海原の波を想像させる刃文、さらには桜の花びらが連なるがごとき刃文。そして最後は刀の地に表れた文様です。これは鉄を鍛錬を繰り返すことによってできるかすかな模様です。この姿・刃文・地肌が見る人を引き付けて離さないのです。

日本刀は視点を移動すると刃文の見え方が変化します。皆さまも是非、日本刀をじっくりとご覧になり、その美しさを堪能してください。



令和4年度大会記録

(県内)

◆都道府県対抗剣道優勝大会予選会(2月6日・県武道館)

▽先鋒 久保冬晟(本庄第一) ▽次鋒 飯塚保斗(大学) ▽五将 福居義久(東松山) ▽五将 泉和毅(高校) ▽三将 足立柳次(警察) ▽副将 栄花元春(東松山) ▽大将 井口清(警察)

◆全国健康福祉祭剣道交流大会予選会(4月4日・県武道館)

▽先鋒 柿沼日出美(熊谷) ▽次鋒 今井美行(秩父) ▽中堅 手島隆治(熊谷) ▽副将 中出良彦(熊谷) ▽大将 伊藤六夫(朝霞)

◆都道府県対抗女子剣道優勝大会予選会(4月4日・県武道館)

▽先鋒 花塚未幸(高校) ▽次鋒 菊池衿花(熊谷) ▽五将 小川梨々香(東松山) ▽中堅 加藤順子(北本) ▽三将 清水千聖(高校) ▽副将 村山千夏(警察) ▽大将 市村麻実子(朝霞)

◆高校剣道関東大会予選個人(4月22日・所沢市民体育館)

▽男子 ①久保冬晟(本庄第一) ②山本(本庄第一) ③中村(城北埼玉) ④鈴木(本庄第一)
▽女子 ①花塚未幸(埼玉栄) ②下田(淑徳与野) ③高野(山村学園) ④蘭田(熊谷女子)

◆高校剣道関東大会予選団体(5月7、8日・県武道館)

▽男子 ①本庄第一 ②埼玉栄 ③山村学園 ④松山 ⑤川越東、川口市立、寄居城北、川越
▽女子 ①星野 ②本庄第一 ③淑徳与野 ④埼玉栄 ⑤久喜 深谷第一 ⑥春日部女子 ⑦大宮東

◆国体剣道成年の部予選会(5月14、21日・県武道館)

▽女子 先鋒 志藤綾子(東松山) 次鋒 清水千聖(高校) 大将 村山千夏(警察)
▽男子 先鋒 福居義久(東松山) 次鋒 足立柳次(警察) 中堅 橋本桂一(東松山) 副将 若林耕多(久喜) 大将 金田孝行(警察)

◆インターハイ予選 個人(6月1日・所沢市民体育館)

▽男子 ①久保冬晟(本庄第一) ②鈴木(本庄第一) ③中村(城北埼玉) 山本(本庄第一)
▽女子 ①亀野梨音(星野) ②柳(淑徳与野) ③森(本庄第一) 下田(淑徳与野)

◆インターハイ予選 団体(6月17日・県武道館)

▽男子 ①本庄第一 ②山村学園 ③城北埼玉 ④鷺宮

▽女子 ①星野 ②埼玉栄 ③淑徳与野、本庄第一

◆埼玉県女子剣道選手権兼全日本女子選手権予選(6月11日・県武道館)

①小川梨々香 ②志藤綾子 ③宮沢彩香 ④村山千夏 ※白抜き数字は全日本選手権出場

◆埼玉県高齢者剣道大会(6月11日・県武道館)

▽60～65歳未満 ①藤井基弘(朝霞) 70歳未満 ①中山良彦(熊谷)
▽75歳未満 ①甲村龍彦(北本)
▽75歳以上 ①渡辺秀男(東松山)

◆学徒総合体育大会中学剣道兼関東大会予選(7月16、17、30日・県武道館)

▽女子団体 ①朝霞第二中 ②北本中 ③本庄第一中、越谷富士中 ④深谷幡羅中、川口青木中
▽男子団体 ①朝霞第二中 ②本庄第一中 ③北本中、菖蒲中 ④越谷富士中、春日部大沼中
▽女子個人 ①柳瑠璃(北本中) ②西田(越谷富士中) ③小林(朝霞二中) ④伊東(越谷富士中) ⑤甲田(越谷富士中) ⑥小沼(越谷富士中) ⑦猿山(北本中) ⑧富(深谷幡羅中)
▽男子個人 ①熊田圭佑(城北埼玉) ②南雲(朝霞二中) ③鈴木(朝霞二中)、石井(北本中) ④古澤(朝霞二中)、吉野(北本中)、若林(本庄第一)、久保(熊谷妻沼東中)

◆都道府県少年剣道優勝大会予選会(7月18日・県武道館)

①大野勝輝(北本) ②大園岳翔(杉戸) ③石井明(北本) ④日比野巧(浦和) ⑤富永琢水(川口)

◆四地区対抗親睦剣道大会(8月7日・県武道館)

①西部地区 ②東部地区 ③南部地区 ④北部地区

◆埼玉県剣道選手権兼全日本選手権予選(8月27日・戸田スポーツセンター)

①足立柳次 ②田島純一 ③福居義久

(関東・全国)

◆関東高等学校剣道大会(6月11、12日・前橋市)

▽男子個人 優勝 久保冬晟(本庄第一) 三位 中村宇亨(城北埼玉)

◆全国高等学校定時制通信制剣道大会(8月1日・日本武道館)

▽女子団体 三位 埼玉(福島、高田、福島、佐藤)
▽女子個人 二位 福島珠々(大川学園)

居合道範士拝受にあたり

佐藤 忍

コロナウイルス感染のため中止を余儀なくされていた全日本剣道連盟演武大会が令和4年5月2日、3日、4日にわたり3年振りに開催されました。

今回は第118回にあたり、しかも全日本剣道連盟設立70周年の冠大会でもありましたが、無観客という形で行われた異例の開催でありました。

静まり返った会場内での演武は全てYouTubeで動画配信され、私も2日の演武に臨ませて頂きました。

翌日の午後、京都駅から新幹線で帰路につき浜松あたりに差し掛かった頃でしょうか、色々な方から「範士合格おめでとうございます」と携帯にメッセージが届き始めました。

私自身全く予期もしていない突然の知らせに、すぐには事を飲み込めず頭の中が真っ白になってしまいました。

遡ること平成23年に2回目の挑戦で居合道八段位を頂いてから11年が経過していました。

平成27年4月に三日尻幸治居合道部部長から部長の座を引き継ぎ、以来4期8年が過ぎました。その間、全日本剣道連盟派遣フランス居合道講師3回、全日本居合道六・七段審査委員を5回、更には全日本居合道大会審判員を3回と貴重な体験をさせて頂きました。

今年の3月に埼玉県剣道連盟より「範士候補者推薦書」の封筒が届きました。自慢できるような大会実績も功績も持ち合わせていない私はどう考えても候補者として相応しいとは思えず、即座に推薦のご辞退を申し上げました。しかしながらそんな私に、専務理事の増田吉男先生や山中茂樹会長が気持ちの後押しをしてくださり、先生方がそう言うてくださるならと推薦を受けさせて頂いた経緯があります。

青天の霹靂といいますが、正に今回予想もしていなかった事が現実として起きたわけであります。

範士の付与基準は「剣理に通暁、成熟し、識見卓越、かつ、人格徳操高潔なる者」と示されております。改めて範士の重さを感じているところです。

居合道修行にあたり私なりに常に感じていることは、居合道を修練することにより、精神を錬磨し和順の道を極め、更に身体の鍛錬を以てし、刀法による技術はそれらに伴って向上していくということです。特に居合は「鞘の内に勝負が決まる」とあります。この教えは、かりそめにも刀を抜き付け人を損ねたり、己を損ねたりするが如きことを、深く戒められたもので、刀を滅多に抜かずしてこれを未然に防ぎ戦わずして勝ち、和順大平を旨とすべきことを教え、この教えこそが正しい居合道の本意を垂示したものだと思います。

武人として先人の貴重な教えを胸に、これから居合道を志す人々に正しく伝承していく覚悟でございます。

最後になりましたが、今日まで居合道部を支えてくださいました顧問の山崎誉先生始め八段の先生方、部員の皆様、特にこの度の範士授称に対しまして多大なるご尽力を賜りました埼玉県剣道連盟会長、山中茂樹先生はじめ役員の方には心より厚く御礼を申し上げますと共に、埼玉県剣道連盟の益々のご発展をご祈念申し上げます。

「我が師を語る」 — 剣道範士9段 市川彦太郎先生 —

剣道 教士七段 清水 祐介

市川彦太郎先生は、大正9年に長野県に生まれ、国士館専門学校を卒業後、海軍兵学校の教官、高校の教諭、静岡県警察剣道師範を経て、昭和42年埼玉縣警察本部の剣道師範として着任されました。

その当時は、勝谷春助先生が、警察本部の剣道師範として指導をされておりました。私は、浦和警察署の外勤主任をしながら、剣道の特練として武徳殿に稽古に通っていました。

「今度、新しい剣道の先生が来るから」と、教養課長の中村整司さんから聞かされた時は、どういう先生だろう、怖い先生じゃいやだな、なんて考えながら、着任を待っていました。

会ってみると市川先生は、体は大きいですが、温和でやさしい先生でした。

その年は、埼玉国体の年で、自衛隊から蓮井肇先生が大将で来て、先鋒、藤倉二三男さん、次鋒は私、中堅が大久保和政先生、副将が市川彦太郎先生で出場させていただき、優勝することが出来ました。

蓮井先生や市川先生が埼玉県に来たのは、埼玉国体の選手強化のためなのかな！とも考えました。

翌年の、福井国体も先鋒、小澤博さん、次鋒は私、中堅、野澤治雄さん、副将、市川彦太郎先生、大将、蓮井肇先生で出場し、第3位に入賞しました。

同時期に、警察大学校に柔道、剣道指導者を養成する専門課程の術科養成科が新設され、第1期生として、大久保和政先生が入校されました。

その後、埼玉県警剣道の指導は、勝谷先生と市川先生の2人で指導されましたが、昭和43年4月勝谷先生がお亡くなりになりましたので、特練の指導は市川先生のみになりました。

市川先生の指導は、切り返し、かかり稽古の連続で、現在やっている基本稽古はあまりやりませんでした。地稽古で直接教える指導でした。

私は昭和43年3月に警察本部教養課の術科係長で転勤になり、市川先生の部下として直接指導を受けました。うれしいことに昭和45年の岩手国体にも先鋒井之口隆夫さん、次鋒、私、中堅、野澤治雄さん、副将、坂東治雄先生、大将、市川彦太郎先生で出場させていただき、優勝することが出来ました。

市川先生の指導は正に体で教える指導で、竹刀を抑えて間合いの中に粘り強く入ってきて気を殺して打つそして、歴史に詳しく、理路整然と解説して頂きました。また、自らも、大会に出場され数々の実績を残されました。

主な戦歴は、全日本選手権5回出場、都道府県対抗16回出場、優勝1回、国体16回出場優勝3回、東西対抗7回出場等々数えきれないほどの実績があります。

何と言っても昭和52年3月明治村で開催された第1回明治村8段選抜優勝大会で檜崎正彦先生と埼玉県人同士の決勝戦は素晴らしい攻め合いで歴史に残る一戦であったと思います。

その後、先生は昭和51年に剣道範士を授与され、昭和61年に埼玉県剣道連盟会長や世界剣道選手権大会の日本チームの監督、平成元年に全国で一番の若さで剣道9段に昇進されました。

平成9年には第10回世界剣道選手権大会の審判長を勤めるなど多忙な日々を過ごされ、また、後進の指導にも情熱を燃やされておりました。

後年、おできの治療の輸血により、C型肝炎を患い大変だったようでしたが、剣道の普及発展に尽力された功績は、剣道界の宝であると思います。



昭和42年10月埼玉国体一般の部優勝



昭和43年10月福井国体一般の部第3位



昭和45年10月13日 第25回岩手国体一般の部で優勝



第1回明治村八段優勝大会で
優勝：檜崎正彦 準優勝：市川彦太郎

「青少年指導実践事例」



所沢市スポーツ少年団剣道部会の活動

剣道部会（三ヶ島剣友会）伊藤正和

1、はじめに

所沢市スポーツ少年団剣道部会は、スポーツ少年団が目指す子どもたちの健全育成と仲間作りと併せ剣道による人間形成を図ることを念頭に日々活動をしています。剣道部会は当初3団体で発足しましたが、現在は6団体（三ヶ島剣友会、小手指剣友会、山口剣友会、富岡錬友会、所沢剣道教室、一刀会）が加盟し、日々の稽古やブロック大会・県大会等への参加、団毎に餅つき・水泳教室などの行事の開催などの活動を活発に行っています。

2、活動内容

○所沢市スポーツ少年団剣道交流大会

毎年9月に開催しています。登録団体の会員が一堂に会し個人試合や団体試合（重複出場）を行い、大会後の合同稽古を通してともに汗を流す場となっています。



○合同稽古会

年5回開催しています。基本の稽古と併せ、かかり稽古や打込みなどを中心にしています。全体指導を可能な限り異なる指導者が行っています。異なる指導法に触れることで様々な稽古法を修得することができ、子どもたちの意欲と指導者の指導技術の向上を図っています。このことは、より剣道を学ぶ機会となっています。また、2年前より短い時間ですが、試合錬成も行い互いの技術を高める機会としています。

○錬成会（春・夏、計2回）

主催は西部ブロックスポ少剣道部会で、春と夏の2回実施しています。夏（7月）は団体試合中心です。一人でも多く参加し団体試合を経験できるよう他団体の選手とチームを作ることもあり、試合経験と併せて仲間作りの場ともなっています。春（2月）は個人試合です。特に低学年の選手に試合の機会を与え、試合経験と作法を身につけられるようにしています。また、審判員も経験の少ない方にも多く参加してもらい、錬成会の場で経験者が指導し審判技術の向上を図っています。

○所沢近郊スポーツ少年団剣道交流大会

毎年5月に開催しています。この大会には県内スポ少登録団体やスポ少以外の団体にも参加していただいています。いろいろな地域の団体に参加をいただくことで子どもたちや指導者がより多くのふれあいができることを目的としています。

以上の活動を通して、下記の目的を習得することができると考えています。

1. 稽古・試合等を通して剣道技術を修得するとともに心身共に健康な身体作りをする。
2. 違う団体の団員と一緒に活動することで、いろいろな地域の仲間を増やす。
3. 指導者の指導技術の向上を図り、よりよい団活動を進める。

3.終わりに

剣道部会では、子どもたちが稽古を続けることで「心身を鍛練する」とともに「人間形成を目指す」「多くの仲間を持つ」事を目的としています。一時期は多くの子どもたちが剣道を学んでいましたが、現在はコロナ禍の影響もあり減少傾向にあります。しかし、ここに来て登録人数が増える兆しが出てきています。これは剣道のもつ「礼に始まって礼に終わる」「稽古を通して心身を鍛える」事が評価されてきているのではないかと考えられます。

所沢市スポーツ少年団剣道部会では、今後も活動を通して剣道の良さを知らしめるとともに、仲間を増やし地域への貢献も図っていきたいと考えています。



令和4年称号・段位取得者一覧

〔称号の部〕

時系列順 (令和4年5月3日(京都)) 居合道範士 佐藤 忍 杖道教士 日野原 裕 鈴木 信男 居合道錬士 神谷 昌広 島村 公平 小佐野利通 杖道錬士 長島 恭彦 (令和4年5月6日(京都)) 剣道教士 和久井平四郎(八潮) 進藤 勝(加須) 峯岸 保男(所沢) 原田 至(所沢) 蒲谷 繁一(東入間) 稲川 晃(蕨) 奈良 利昭(朝霞) 峯田 尚道(浦和) 小野 島優(大宮) 井上 英樹(警察) 穴戸 智行(警察) 坂本 茂(警察) 剣道錬士 星川 香織(草加) 高橋 雅興(越谷) 松浦平八郎(越谷) 小島 貴裕(越谷) 鈴木 真仁(越谷) 成田 章子(春日部) 吉田美奈子(春日部) 山崎 智哉(加須) 五月女一夫(羽生) 中村 嘉之(川越) 久野 公治(川越) 鈴木 栄子(川越) 三友 義昭(川口) 武田 忠利(蕨) 茂木 巖(蕨) 高岸 史弥(大宮) 渋谷 善明(大宮) 関口 広美(上尾) 加藤 順子(北本) 田中 達也(北本) 秋山 守(熊谷) 高野 雅利(寄居) 小野寺弘明(警察) 古田土二男(警察) 山田 亘(高校) (令和4年11月18日(東京)) 剣道教士 國吉 聡史(越谷)

松山 和人(杉戸) 関根 光夫(杉戸) 針ヶ谷正俊(加須) 佐々木栄治(所沢) 並本 良平(狭山) 伊藤 誠(狭山) 寒川 聡(飯能) 田中 栄一(西入間) 長谷部太郎(浦和) 城所真由美(大宮) 川畑 元(大宮) 金井 裕(北本) 中山 良彦(熊谷) 米山 伸仁(熊谷) 小島 俊夫(熊谷) 居合道教士 藤村敬一郎 鈴木 信夫 剣道錬士 中村 政孝(八潮) 伊藤 尚男(越谷) 渡辺 寛志(越谷) 酒井 正二(越谷) 矢敷 理香(吉川) 桐生 貴章(加須) 松尾 節雄(羽生) 成島 正仁(東入間) 上田 智仁(東入間) 松岡 志津(狭山) 鈴木藤五郎(川越) 田島 治夫(西入間) 鹿山 広人(西入間) 磯辺 清(西入間) 西野 翼(川口) 奥村 貴史(川口) 西野 徳志(川口) 岸田 延昭(朝霞) 中嶋 宏幸(朝霞) 小泉 尚子(朝霞) 嶋崎健次郎(浦和) 大久保雄司(浦和) 大地恒一郎(浦和) 井出 智子(浦和) 武藤 宗臣(浦和) 中野 卓夫(浦和) 長濱 尚(浦和) 大澤 真一(大宮) 竹島 俊介(大宮) 松本雄太郎(大宮) 諸橋 綾子(上尾) 涌井 津吉(上尾) 橋本 剛(熊谷) 青木 美拓(熊谷) 神吉 史享(熊谷) 鈴木 啓馬(寄居) 新明 一夫(本庄) 石川 真吾(警察) 宮原 良太(警察) 田島 純一(警察) 足立 柳次(警察)

居合道錬士 平田 陽介 勅使河原貞 安藤 貞男 玉手 博子 岡本 義人 新井 宏 平田智恵子 二瓶 茂 根岸 誠助 加藤 勝 (〔段位の部〕 時系列順 (令和4年1月28日(東京)) 杖道6段 小山 大器 中澤 彰子 加藤 義明 (令和4年2月18-19日(山梨)) 剣道7段 中澤 保雄(狭山) 志村 勝(東入間) 栗崎 二男(川越) 白井 崇(西入間) 青木サク子(東松山) 黒澤 学(戸田) 田中 智也(朝霞) 飯島 政裕(寄居) 三友 基雄(本庄) 菰塚恵利子(本庄) 山本 隆浩(高校) 剣道6段 秋山 正男(越谷) 佐々木純子(越谷) 青野 甲(吉川) 古川 博之(久喜) 細井 正敏(久喜) 土本 欣之(所沢) 近藤 大貴(川越) 川上美香子(川越) 高橋賢徳東(松山) 箭内美奈子(川口) 山本 武史(戸田) 池野 千絵(戸田) 白井 真紀(戸田) 荒井 和也(朝霞) 渡邊 正浩(浦和) 稻森 久士(浦和) 植田祐太郎(大宮) 兒玉 孝文(大宮) 町田 博美(上尾) 益子 貴義(警察) 萩原 健太(高校) (令和4年3月6日 埼玉県立武道館) 杖道5段 落合 克巳

杖道4段 友野 裕之 大石亜紀子 (令和4年3月13日 埼玉県立武道館) 剣道5段 井上 憲(越谷) 矢敷 大輔(吉川) 羽石 習平(吉川) 川嶋 浩彰(羽生) 石塚 里沙(羽生) 内野 亜美(所沢) 豊島鉄太郎(狭山) 白井久里子(入間) 平木 陽介(川越) 川合 太郎(川越) 鎌田繁登志(飯能) 宮井 明子(小川) 神保 正浩(川口) 夏井 翔也(川口) 樋上 建二(川口) 小森 恵子(蕨) 小杉亜矢子(戸田) 高井 茂樹(朝霞) 櫛下町武徳(朝霞) 山田 哲広(朝霞) 荒井 克之(浦和) 荒井 健文(浦和) 堤 英俊(浦和) 小林 陽子(浦和) 飯野 浩子(浦和) 木村 敏隆(大宮) 榎尾 潤(大宮) 小沼 勝枝(大宮) 中川 大樹(上尾) 平田 義朗(熊谷) 梅澤 広将(熊谷) 芝田 学(本庄) 八木 翔太(警察) 倉田 誠也(警察) 中島 政憲(警察) 松村 満(警察) 杖道4段 栗原 俊夫(草加) 石野 賢(八潮) 小林美智子(春日部) 小林 智絵(杉戸) 大園志保子(杉戸) 栗原 知史(久喜) 多田 景一(羽生) 奥 都美好(行田) 小林 正幸(所沢) 中島 正人(所沢) 山下 安博(所沢) 吉村 正明(東入間) 津田 朋彰(東入間) 笠原 堯杜(狭山) 大沢 龍樹(入間) 市川 元恒(川越)

中嶋みやび(川口) 佐藤 大毅(川口) 岡田 知里(川口) 齊藤 昂大(蕨) 中里 俊亮(朝霞) 河野聡一郎(朝霞) 中川 和子(浦和) 中村 利和(浦和) 荻野 賢悟(大宮) 奈須川大輝(大宮) 黒崎 豪(上尾) 須田 鉄郎(上尾) 金子 泰英(上尾) 西川 茉佑(寄居) 大門 健身(高校) 若山 凌佑(高校) 中道 慶(大学) 坂本奈々未(大学) 板橋 優菜(大学) 福岡 史歩(大学) 小川 大翔(大学) 本間 勇治(大学) 猪熊 琉河(大学) 小川 真琴(大学) 関根加那子(大学) 品川 実希(大学) 宮本 蓮(大学) 吉橋 俊紀(大学) 佐々木勇人(大学) 阿部 志音(大学) 入江 葉月(大学) 小松 里香(大学) 細田 健司(大学) (令和4年4月3日 埼玉県立武道館) 居合道5段 志村 雄基 太田 智 佐々木俊彦 小池 俊久 箭内 進 星野 栄一 成松 毅彦 大槻 紀子 居合道4段 高橋 健吾 加藤 秀明 松澤 充宏 井上 誠 岡田 勝幸 田邊 恭司 関根 正勝 平田 碧 清水登志子 正木 政江 (令和4年4月29日 京都) 剣道6段 山口 紀之(東入間)

鈴木 康人(川口) (令和4年4月30日 京都) 剣道7段 小泉 尚子(朝霞) (令和4年5月14日 愛知) 剣道7段 柴久喜 均(越谷) 厚川 陽康(越谷) 古谷 勇一(久喜) 伊澤 弘(川口) 青木 暢之(朝霞) 山崎 克久(大宮) 岩田 香織(熊谷) 廣澤 勝則(本庄) 永久 貴子(高校) 染葉 幸枝(高校) (令和4年5月15日 愛知) 剣道6段 草深 千春(越谷) 長富 幸美(入間) 岩崎 幸一(入間) 大沢 幹人(入間) 関根 慎也(西入間) 佐藤 智子(川口) 後藤 大樹(蕨) 後藤 寛(戸田) 松林 祥史(大宮) 中村純一郎(大宮) 中山 彰彦(警察) 小柳謙太郎(警察) (令和4年7月9日 埼玉県立武道館) 剣道5段 田中 博人(草加) 工藤 芽生(越谷) 浦郷 恒(吉川) 平賀 大樹(吉川) 佐瀬 力(杉戸) 川堀 美紀(久喜) 野口 恵通(久喜) 河村 彩乃(所沢) 市來 劍(所沢) 石川 雄己(所沢) 渡部 陽美(所沢) 飯塚 正和(所沢) 原田 英補(川越) 荒木田正晴(川越) 中谷 元希(川越) 土田 卓(川越) 樋浦 健(川越) 伊藤 哲也(東松山) 前田 裕司(蕨) 笹山 真司(戸田) 川畑 現大(朝霞) 有路 二郎(朝霞) 中村 光緒(浦和)

田中 秀昭(浦和)	森本 克也(大宮)	〈令和4年10月2日 埼玉県立武道館〉	飯沢 雅人(浦和)	井田 光哉(北本)	潮剛 宗(熊谷)
平田 正市(浦和)	石川 行(大宮)	玉県立武道館)	鈴木 弘明(浦和)	大西 尊(北本)	小宮山仁士(熊谷)
小川 典子(大宮)	積田 浩成(大宮)	居合道5段	遠藤めぐみ(大宮)	内村 日向(北本)	八木 秀雄(熊谷)
田原 省三(大宮)	亀田 琉喜(上尾)	中島 直貴	根岸 貴夫(大宮)	岩田悠太郎(秩父)	中村 英之(秩父)
土井 友希(上尾)	原 望(上尾)	中村 桂	大越 一範(大宮)	伊藤 勇太(警察)	小島 慎介(警察)
本村 咲也(上尾)		今村 嘉宏	島田 裕也(大宮)	細川 竜也(警察)	堀口 健(警察)
坂口 陽子(鴻巣)	〈令和4年7月22日 岡山〉	渡辺 英之	黒崎 城(上尾)	小針 雅弘(高校)	高橋佳菜子(警察)
持田 和重(熊谷)	居合道7段	小笠原宏泰	篠崎 成隆(上尾)	仲 涼太郎(高校)	尾上 浩一(警察)
安藝 讓(警察)	高橋 雅仁	野口 由夫	川端 明(北本)	海老子川美李依(大学)	室岡 拓磨(警察)
奥山 英祥(警察)	笹村 舞実	新井 正雄	菊地 春花(熊谷)	金子 佳音(大学)	長野 成吾(高校)
岩城 健典(警察)	居合道6段	鈴木 襄	鶴留真由美(熊谷)	江連 瑠美(大学)	
小笠 玄水(警察)	青山 隆一	横田 麻衣	関根 健悟(警察)	三浦 丈(大学)	〈令和4年11月19日(東京)〉
生沼 新(警察)	出口 正人	居合道4段	山本 皓(警察)	山之内那南(大学)	剣道7段
吉河 孝幸(高校)		河野 徳紀	野稻 陸(警察)	新井 丈太(大学)	奥澤 裕之(草加)
Oliver NG(国際)	〈令和4年8月6日 福岡〉	鳥飼 元延	野村 優樹(警察)	太田ほのか(大学)	青木 正行(草加)
剣道4段	剣道7段	森澤 宏昭	杉山 晃久(吉川)	竹内 健人(大学)	増田 知靖(八潮)
安生 哲也(越谷)	陶山 莞爾(所沢)	堀口 勝政	河村 泰成(春日部)	塚本 晃大(大学)	田村 顕正(越谷)
池上 真央(越谷)		三澤 英治	佐藤 響(春日部)	田中 享佑(大学)	長島 弘尚(越谷)
釜下 世(吉川)	〈令和4年8月20日 新潟〉	海藤 彩音	水野 寛也(春日部)	野田 萌加(大学)	石田 正人(春日部)
逆井 麻揮(吉川)	剣道7段	川村 裕子	石黒 真衣(春日部)	矢部 滯(大学)	明石紀久子(久喜)
近藤 春季(吉川)	岩佐 貴充(越谷)	小森 恵子	有川 沙貴(加須)		小野原 寛(久喜)
大塚 雅代(杉戸)	梅田 浩二(春日部)		小倉 直己(羽生)	〈令和4年11月13日(愛知)〉	猪熊 孝文(東入間)
木村 聡(久喜)	高橋 栄一(行田)	〈令和4年10月10日 埼玉県立武道館〉	乙川幸太郎(所沢)	剣道6段	村井 真澄(飯能)
伊藤多恵子(行田)	三上 進一(入間)	杖道4段	倉本 俊輔(所沢)	中山 陽輔(浦和)	川崎 克子(飯能)
吉居 宏(所沢)	川島 武(入間)	柳澤 康一	松井 亮子(東入間)	木戸 雅人(浦和)	齋藤 守之(東松山)
金子 弘(所沢)	中村 吉宏(川越)		草木 昌一(東入間)		星川 隼人(川口)
見澤 涼太(所沢)	長谷川雅敏(川越)	〈令和4年11月5日 埼玉県立武道館〉	柳下 雅彦(東入間)	〈令和4年11月18日(東京)〉	増田 徹(川口)
松浦 哲也(所沢)	染谷 陽司(川越)	杖道5段	入君 遥人(狭山)	剣道6段	山形 秀雄(川口)
小野島優子(東入間)	阿部 嘉顕(飯能)	二瓶沙久嘉(越谷)	細淵 健斗(入間)	山中 寿美(越谷)	小島 一祐(朝霞)
齊藤 音羽(狭山)	高橋 有吾(東松山)	菊名 裕(吉川)	坂田 勉(川越)	平賀 隆大(春日部)	石灰 克之(浦和)
半田 武(入間)	茂木 巖(蕨)	遠藤 博之(幸手)	前田 剛稔(川越)	高橋 省三(杉戸)	岡 武志(大宮)
貫井 弘誉(川越)	田代 義孝(朝霞)	西澤 大輝(行田)	阿辺川達也(飯能)	石塚 英行(杉戸)	吉川 洋之(大宮)
佐々木広夢(川越)	高橋 祐二(大宮)	乙川森乃介(所沢)	権田 琴乃(小川)	武田 廣美(久喜)	吉田 二茂(上尾)
佐々木康智(川越)	椎屋 理香(大宮)	山田 龍(所沢)	長尾菜旺輝(小川)	安住 深雪(久喜)	関根 秀和(北本)
小泉 元(川越)	新井 潤一(上尾)	福浦 秀磨(東入間)	古川奈美子(川口)	会田 和彦(久喜)	手島 隆治(熊谷)
松澤 萌会(川越)	佐伯 武彦(熊谷)	吉田 明永(狭山)	青木 一真(川口)	佐々木 幸(羽生)	町田 和也(秩父)
森下 正悟(川越)	石塚 弘行(警察)	後藤 智美(狭山)	渡辺 祐次(川口)	中武 貞美(行田)	
渡辺 勇輝(川越)	嶋田 貴文(警察)	宗平 里香(川越)	柳田早穂子(川口)	佐藤 恵(所沢)	〈令和4年11月24日(東京)〉
岡田 一観(西入間)		野原 康弘(川越)	池澤 光星(蕨)	植田 隆隆(東入間)	剣道8段
秋山 靖子(西入間)	〈令和4年8月21日 新潟〉	稲葉 一徳(東松山)	大竹 里歩(戸田)	齋藤あかね(狭山)	米屋 勇一(警察)
中道優多郎(西入間)	剣道6段	小室 雄一(川口)	高村 浩輝(朝霞)	宇田 宏司(狭山)	
副島 竜海(東松山)	川崎 和子(越谷)	遠藤 啓太(蕨)	山崎 智久(浦和)	近藤 典子(入間)	〈令和4年11月27日(東京)〉
浅野 航平(東松山)	佐藤 孝一(越谷)	横山 拓紀(戸田)	小林 佑輔(浦和)	深澤 朝幸(川越)	居合道7段
小川 真奈(川口)	岩楯 浩志(久喜)	内田 優作(戸田)	青木 健(浦和)	笠原 明子(川越)	戸村 学
東 勇斗(川口)	田中 三郎(久喜)	井上 真琴(朝霞)	米原 学(浦和)	森田 庸一(川越)	大江山雄治
石原 碧生(蕨)	河原 木豊(行田)	岩滝 晶子(浦和)	河森 明依(大宮)	國本 勇太(飯能)	鈴木 貴博
石黒 義高(蕨)	古林 律子(入間)	吉永 正徳(浦和)	関根 功男(大宮)	根岸 和宏(小川)	居合道6段
高橋 佳奈(朝霞)	岩田 明広(西入間)	宮西 敏行(浦和)	上田 安理(大宮)	高橋 伸彰(川口)	松本真之介
吉野 智治(浦和)	茂田 大貴(川口)	工藤 高(浦和)	上野 英二(大宮)	松村 修一(朝霞)	仁尾 竜大
宮内 淳太(浦和)	三摩 和博(朝霞)	山本 香弥(浦和)	清水由美子(大宮)	渡邊 直美(朝霞)	吉田美智子
佐藤 薫(浦和)	吉田 洋(朝霞)	西村 証哉(浦和)	吉田亮太郎(上尾)	大森 順子(浦和)	黒瀬 茂雄
石川 将吾(浦和)	小森 一英(朝霞)	大和田 寛(浦和)	重富 栄樹(上尾)	桑野 真一(大宮)	小佐野利通
堀口 哲平(浦和)	寺田 仁秀(浦和)	程川 和美(浦和)	大西 李英(上尾)	轟間賢太郎(鴻巣)	須長 昇一
久保田 優(大宮)	土井 一朗(上尾)		大塚 利雄(上尾)	中池 司郎(北本)	高石 吉彦
原田 光(大宮)	関根みどり(秩父)		大野 愛唯(上尾)	川上 宗真(北本)	
小堀 修男(大宮)	板垣 裕一(高校)			猪狩 和彦(熊谷)	

編集後記

昨年度、広報部会の一部メンバーが入れ替わり、新メンバーでスタートいたしました。その時点では前18号は、既に企画を終え編集段階にありましたので、新メンバーで企画から携わるのは本19号からということになります。

現在は20号の企画を終え編集段階に入りましたが、あらためて企画の重要性和難しさを痛感しております。

今後とも皆様のご意見、ご協力を賜りながら、より良い『剣風』をめざし、メンバー一同努力していく所存です。(半田)